



「暑い暑い夏」

10月に入り、秋を感じさせる気候となりました。家を出るとき上着を羽織った瞬間、ふと思い出したのが青森県の東北町職員組合の通常総会でした。

私は青森県出身で、もう30年くらい前になりますが、住んでいた頃の青森の夏は、日中暑い時でも涼しい風が吹き、夜は冷えるため窓を開けて寝ると風邪をひくくらいでした。

そんな記憶の中、忘れもしない7月14日。東北町は青森県だというのに信じられない暑さで、30度を超えていたと記憶しています。会場に到着し、待機場所にいたのですが、そこに置いてあるだけのストーブに火がついているのではないかと勘違いするほど暑かったため、すでにエアコンの効いている総会会場で待機することになりました。総会が始まり、私を含む来賓の方々が挨拶を済ませ会場を去り、総会後の懇親会まで控室で待機することになったのですが、その控室が蒸し風呂状態。この蒸し風呂での心和むお話をしたいと思います。

蒸し風呂状態の会場は、座っているだけで汗が噴き出してきました。しかし、町長を始め、関係者や来賓の方々は、とにかくよく喋る。久しぶりに会った仲間と、暑さも忘れ嬉しそうにずっと、とにかく喋る。たまに「あっつ（暑い）！なんぼあっつんだば（なんて暑いんだ）！」とみんなで連呼するものの、なぜかその暑さをネタにゲラゲラ笑いながらまた喋る。

対応策①

一応あるというエアコンのスイッチを入れた瞬間、熱風が襲う。「あっつ！」と言いながらもみんな笑顔。「使ってねはんでだびょん（使ってないからだろう）。そのうち涼しくなるよ」とみなさん。1分経過。3分経過。5分経過。それでも涼しくならず、逆に暑くなっていく。その時みなさんは、やはりその暑さに面白さを感じ、ゲラゲラ笑いながら喋りに夢中。

対応策②

エアコンが効かないとわかったのか、今度は窓を全開！私は青森の涼しい風を知っている。これには大いに期待できた。が・・・無風。普段は風があるのにこの日はなぜか無風

とのこと。その時みなさんは、風は入らないなとゲラゲラ笑いながら喋りに夢中。

そうこうしているうちに総会が終わり、懇親会が始まり、東北町職員組合の蛭沢新委員長体制がスタートしました。めでたしめでたし。

確かに地球温暖化で暑くはなっているでしょうが、この暑さを笑いに変える東北町の方々の人柄は素晴らしいと思いました。都会で同じような場面があったらどうでしょう？暑さに対し文句しか言わず、不機嫌になり、懇親会が始まっても文句ばかりではないでしょうか？

来年東北町職員組合は50周年を迎えます。さらなる飛躍と祝賀会当日が涼しくなることを心よりお祈り申し上げます。